

十二月十七日 國交にむけ

12月10日理事会国交の状況報告(現実は理事が二人
残らず逃げたので学生部国交であった)

理事者達はその教育的立場を保障する地位にありながら
又もや、あたかも会議室で会議行なわれているがごとく装
おいなから本校にいた学友にも気がつかないような全く破綻
恥な方法で逃七し、農学部学友が切に要求してきたところの
交を捨てたのである。もしこの事件が再度とられたら
残された手段はただストライキをも含む実力闘争の決意
みである。新たな展望を求めて

学生部との国交においては、加藤学生部長は、理事不在の場合に
(現実にはこの時は午後3時頃逃げて私生活に入居場所がわから
なかった)だれが理事部長の代行をし、責任をとるのかと聞いた
ら言葉たくみに逃げて、明らかにしなかった。口ではいくら本當
の教育者らしい事をいっても実際に行動がともなわれないわけであ
る。加藤新学生部長はただ以前の部長と変りなく学生をいかに
まるめこむ、こういう事しか考へなかつたのである。参加された学
友も身をもつて感じられたと思います。こういう責任の所在が明
らかでない大学機構、又学生対策しか考へていない学生部に対し
も我々は追求して行かなければならぬだろう。

注：学生部の仕事 学長補佐、学生の更正指導、学生と理事会との、単
なるテニスコーナーとしてではなく、穴のあいたパイプ

新展を以て事態をもつて決意をしない辞さずとも闘争実力

この二つの態度でしか我々に対応しないので、学生会は自項目の要求を出し、承認
して下さうと言ったわけですが、しかしながら次の二点前項で明らかにし
た個別農校舎の解決が遅れ、反学生的に処理されたことは、責任は学校理事会に
あり、局理事会の責任をひきまえて判断すれば、これからは移るべき問題である。
客観的事実を提出し、農学部教授の承認を認めながらも理事に合意されれば、
と認めておこなう。農学部再編にのぞいた所の農校舎(仮坪)建設に
ついての議論の議論は、度もなされた事がないのだ。この二つの理事会に何
を聞きに行こうというのであるだろうか？

この二つの態度がもつて対処できない学生部は、明らかに第2理事会のほ
か何者でもない。この二つを自ら明らかにしたよりほかならない。
我々農学部学生はこのような欺瞞を断乎はねのけて、明治大学中央執行
委員会と五人に農学部学生会を中心として、新たな戦いを展開しよう